

企業的農業:大資本による大規模農業経営。単一耕作(【①】)。

※企業的農業の発生

- ・産業革命以降の工業発展と都市人口の増加
→工業原料と食料需要の増大
- ・輸送手段の改良=船舶の大型化、鉄道の普及
- ・有刺鉄線の発明、流通・加工技術(【②】・【③】)等の進歩
→【④】での農業地域の形成

○【④】農業:穀物や飼料作物の栽培。

- ・特色
- ・広大な農地・大型機械の使用→【⑤】生産性は極めて高い。
【⑥】生産性は高くない。
→商品の国際競争力が強くなる(価格が安くなり売れやすくなる)。
- ・小麦・トウモロコシ等を【⑦】商品作物として単一耕作(適地適作)。
- ・【⑧】が流通を握る。
- ・不作や需要の増減で大きな価格変動が起きる可能性あり。
ex1.2007~08年 オーストラリアで干ばつ→小麦の価格が倍に
ex2.アメリカでのトウモロコシのバイオエタノール原料への転換

「端境期」

- ・分布
- ・プレーリー~グレートプレーンズ、湿潤パンパ、ウクライナ周辺、豪南東部
(グレートプレーンズでは【⑨】利用)

○【⑤】業:肉牛や羊の飼育。

- ・分布
- ・グレートプレーンズ、カンボ、乾燥パンパ・パタゴニア、
オーストラリア西部・大鑽井盆地、南アフリカ共和国。
※【⑩】=肥育場。【⑪】による肥育を行う。

←センターピボット

地下水の枯渇や土壌の塩性化などの問題

←

濃厚飼料による肥育

抗生物質やホルモン剤を与える場合もある。

cf.フォアグラ

「奴隷労働力」

←

主食穀物を輸入に頼っている国もある。

←

近年のプランテーション農業のマルチカルチャー(多角)化

ex.ブラジル

コーヒーのみ

→大豆・トウモロコシ・

綿花・サトウキビ・カカオ等

○【⑥】農業

- ・特色
- ・【⑩】資本が、現地労働者や【⑪】を安く雇い、大農園で、
商品作物(【⑫】・【⑬】)を、大量に単一耕作させる。
- ・効率が良く、大量生産が可能だが、気候や価格の変動に弱い。
- ・農場内に加工施設や労働者の住宅がある。
- ・【⑬】(=主食)の生産を圧迫している場合もある。
- ・分布
- ・熱帯・亜熱帯地域の【⑭】旧植民地。主に沿岸地域(→輸出のため)。
- ・主なプランテーション作物とその産地(資料集、2017年)
- ・コーヒー(ブラジル、ベトナム、コロンビア、インドネシア)
- ・茶(中国、インド、ケニア、スリランカ)
- ・カカオ(コートジボワール、ガーナ、インドネシア)
- ・サトウキビ(ブラジル、インド、中国、タイ)
- ・バナナ(インド、中国、インドネシア、ブラジル、エクアドル、フィリピン)
- ・天然ゴム(タイ、インドネシア、ベトナム、中国、マレーシア)
- ・アブラヤシ →パーム油(インドネシア、マレーシア、タイ)

農業の近代化と課題

- ・品種改良、化学肥料・農薬、機械の導入→近代化し生産性が上昇
- ・**①** : 発展途上国での**高収量品種**の導入による農業近代化。
食糧不足の解消が目的。米・小麦・トウモロコシの多収量品種の開発と普及により農業生産が拡大。
※高収量品種は**② 灌漑 施設**の整備、
③ 化学肥料・**④ 農薬**の投入が必要
→それらを用意できる富裕な農民とそうでない農民、地域間での**⑤**格差が拡大した。
- ・課題: 農業の環境への影響や食の安全の確保
→有機(無農薬)農業の推進、遺伝子組み換え作物への批判など

発展途上国における農業の二重構造

- ・伝統的農業(自給的農業)と近代的農業(企業的農業)の二重構造。
企業的農業は先進国への輸出向け作物が、高品質、高効率で生産される。
→環境への負荷(←品質保持のため化学肥料や農薬の使用が必要)
- ・発展途上国の農民の弱い立場(←価格決定権が先進国側にある)

グローバル化と世界の農業

- ・**⑥** :
・穀物の流通に大きく関わっているだけでなく、さまざまな農業関連産業(**⑦ アグリビジネス**)の中核で、農産物の生産から流通・消費までの一連の食料供給体系(**⑧ フードシステム**)全体をコントロールする。
- ・高度な情報収集能力 → 穀物の価格決定に大きな影響力を持つ。
・気象情報や人工衛星により、世界各地の作付け状況や収穫量を予測。
- ・穀物価格変動に関わる**情報**を独占し、利益の最大化を図る。

農産物貿易の自由化

○自由化交渉

- ・**⑨ GATT** (関税と貿易に関する一般協定)
輸入制限の撤廃、関税の引き下げ
- ・**⑩ WTO** (世界貿易機関) 1995 年設立。
- ・**⑪ (環太平洋パートナーシップ協定)** (2015 年)
・日本を含む環太平洋12か国による経済連携協定。
- ・農業交渉: 日本が輸入している 2328 品目の農林水産物のうち、1885 品目で関税撤廃(そのうち 51.3%は即時撤廃)。
生の果物・野菜はすべての品目で関税撤廃。

○各国および地域

- ・アメリカ合衆国、オーストラリアなど=農産物輸出を拡大
- ・EU=共通農業政策(Common Agricultural policy; CAP)の見直し
- ・日本=輸入依存度上昇(→**食料自給率**低下)、農業生産力低下の危機

日本の遺伝子組み換え作物
遺伝子組み換えを行った大豆、トウモロコシ、ジャガイモ、菜種、綿実、アルファルファ、甜菜、パパイヤの8種とその加工食品については、「遺伝子組換えである」こと、または「遺伝子組換え不分別である」ことを表示しなければならない。

穀物メジャー

多国籍企業。穀物**巨大**商社。
カーギル社(アメリカ)が代表的。

アグリビジネスの例

種子・品種の開発
農畜産物の加工
農機の製造・貸し出し
化学肥料・農薬・飼料の生産
農産物の流通
(集荷・貯蔵・輸送・販売)
など

TPP

米トランプ大統領 2017 年に離脱を宣言。

EU 共通農業政策

加盟国が域内の農業の共同市場を運営するために実施。域内農業の保護のため、域外からの農作物に輸入課徴金を課して輸入を抑える等。